



<http://www.nul.nagoya-u.ac.jp/koho/kanto/>

目 次

図書館が変わります	
ー中央図書館ラーニング・コモنزの 初年度構築計画の概要ー	1
学内図書館・室の学習支援状況	3
中国社会科学院所蔵・ 青木正児博士の書簡（写真）の寄贈	5
東海地区の公共図書館から 図書を取り寄せることができます！	7
本学教員著作物の寄贈リスト	9
利用者から見た図書館	9

図書館が変わります

ー中央図書館ラーニング・コモنزの初年度構築計画の概要ー

増 田 晃 一

1. はじめに

中央図書館では、ここ数年、場所としての図書館のあり方を再検討し、学生の学習支援のための新しい図書館として、グループで相談や議論をしながら学習をすることができたり、デジタル資料と従来からの冊子資料とを同じ場でシームレスに使い、種々の助言や電子資料やソフトウェア利用の指導など人的なサポートも受けられるという、新たな学習空間であるラーニング・コモنزを構築する計画を立てました。教科書と参考書だけで個別に学習するのではなく、大量のデジタル情報をも合わせて駆使し、創造的な考える力をつけられるような学習空間として、平成20～21年度の2年をかけた計画で、2階フロアのほぼ全体と3階の東側の一部をラーニング・コモنزとして整備する計画を進めているところです。

ラーニング・コモنز構築計画については、すでに『館燈』No. 167 (2008. 5. 15) に、「図書館の学習教育支援の現状と新展開についてーラーニング・コモنزの創成ー」として、伊藤附属図書館長からラーニング・コモنزの理念・概要や中央図書館での構築計画が紹介されていますが、本稿は初年次における具体的な構築計

画の概要を紹介するものです。

2. ラーニング・コモنزのゾーニング案

当初の全体計画では、図1のような2階フロアのゾーニングを計画しています。

学習スペースとしては、南側にグループラーニングエリア、北側に多目的ラーニングエリアを配しています。多目的ラーニングエリアでは、資料を広げながらPCを使えるようなゆったりした机を用意します。PCやプロジェクタ機器を配したセミナールームも南北にそれぞれ設置します。従来型の資料を配置している参考図書エリア、雑誌エリア、視聴覚資料・ブース等を集めたAVエリアがあります。ライティングセンターでは、論文・レポートの作成を支援する機器、ソフトウェア、論文作成マニュアル類の図書等を整備します。北側の中央部には「総合サポート」カウンターを設置し、各種の人的支援を行います。

3. 初年次のラーニング・コモنز構築計画

初年次は、中央図書館2階の南側、図1の下側を中心に整備する予定です。玄関・ゲートを入った正面、目録カードボックス、参考図書の



図1 ラーニング・commonsのゾーニング案

書架が配置してある一帯が対象部分です。

目録カードについては、すでに目録情報のほとんどのものがデータベース化され、OPACで検索可能となっていますので、カードボックスは2階フロアから撤去します。なお、書名カードについては、他の階に移設して当分は残しますので、必要な方はそちらでご利用できます。

参考図書や抄録・索引誌は、類似のものを含め電子媒体を導入したり、インターネットで検索可能なものなど、電子的に代替できるものは冊子を別置するなどして、精選したもののみを2階に配置します。別置先は、一部は1階、他は情報連携基盤センターの地下に設置する保存書庫になります。保存書庫のOPACの「配置場所」表示は「中央図 保存庫」となります。

1年次の整備対象エリアは、概ね図2の通りですが、工事その他の都合で他のエリア等に広がることもあります。机や端末等は仮の図ですのでこのとおりにするとは限りません。

(1) グループラーニングエリア

新たな学習スペースで、これまでのスタンダードである個別学習から、学生同士の議論や共同作業の場として整備します。机やイスなどの什器は移動可能なものとし、人数に応じて机やイスを集めることができ、グループでの学習に対応します。

ホワイトボード、スクリーン、プロジェクター

を複数台用意し、プレゼンテーションやそのトレーニングもできます。

エリア内に検索やコンテンツ利用のためのPCを配置するとともに、無線LANを整備し、持込みPCによるネットワーク接続も可能とします。

(2) 情報リテラシーサポートエリア

従来の参考調査カウンターを核に、OPAC端末、CD-ROM等の情報検索コーナーやマイクロリーダープリンターを周辺に配置します。ここでは少人数の情報リテラシー講習会も随時でき、また職員のサポートを受けられる機器や態勢を構築します。

(3) セミナールームB

情報サポートエリアに隣接してセミナールームBを設け、従来サテライトラボで行っていた図書館の各種ガイダンス・講習会をここで行えるようにします。これによりサテライトラボの利用を制限せずに、ガイダンス・講習会が実施できるようになります。それ以外の時間はPCの利用ができます。また、語学学習の自習もできるようにCALLラボ対応を考慮しています。

(4) 参考図書エリア

参考図書、抄録・索引誌を精選し、西側のエ

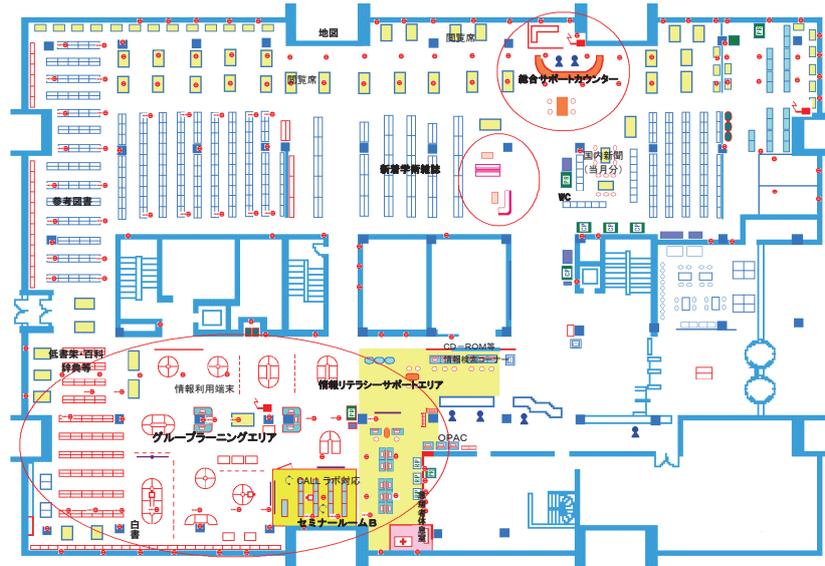


図2 ラーニング・コモنزの初年度構築予想図（赤丸で囲んだ部分が初年度予定の区域）

リアに配置します。白書は、南側の窓のところに低書架を設置し、そこに移動する予定です。また、百科事典類は西側の窓のある付近に新たに設置する低書架に並べる予定です。利用頻度の低下した海外の所蔵目録や書誌類は、多くは地下1階に移動します。

4. おわりに

ラーニング・コモنزは、これまでの静謐な図書館のイメージを変えるものですが、2階フロア以外は従来通りの静謐な空間を維持します。

この新しい学習空間での自由闊達な議論が、将来のノーベル賞へ繋がるかもしれません。

なお、今後年度末にかけてできるだけ図書館を閉館せずに資料やカードボックスの移動、各種工事や家具・機器の設置を行う予定ですので、2階フロアの該当箇所への立ち入りや資料の利用を制限したり、騒音が発生したりする場合がありますが、皆様のご理解をお願いいたします。

（ますだ・てるかず 情報サービス課長）



学内図書館・室の学習支援状況

中央図書館のラーニングコモنزの構築に見られるように、図書館における学習支援に関わる事業が現在重要な課題となっています。課題となっている学習支援とは、学部、大学院に関わらず広く学生全般に対して、その学習・研究活動に図書館が何を提供できるかであり、大学の行う教育活動のアクティビティの高度化に対応しようというものです。

表1に学内の図書館・室で行われている学習支援状況の主なものをまとめて掲載しました。

表にはありませんが、通常の業務である各館・室でのカウンター対応やレファレンスサービスなども重要な支援であることはいうまでもありません。附属図書館は今まで新しいサービスとしてデータベースや電子ジャーナル・電子ブックの充実に努めてきました。今後も更に充実させる方向ですが、今はこうしたものの利用のための情報リテラシー指導が図書館・室の行う学習支援の大きな柱となってきているのが全体的な状況のようです。